

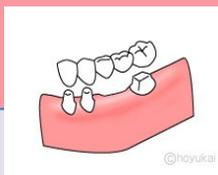
治療の選択肢 どんなのがある？

お口の健康の曲がり角、それは40～50代。歯の大切さは、失ってはじめて身に染みるもの。国内の歯科疾患実態調査によると、40代後半に1本程度の歯を失いはじめ、50代後半ともなると平均で4本程度を失っていることがわかります。歯を失うこと。それはとてもショックな出来事です。もしも歯を失いはじめてしまったときに機能や見た目を回復させ、心の負担を軽くするにはどんな治療法がふさわしいのか一緒に考えていきましょう！

大きく分けると治療の選択肢は3通り！

1. フリッジ

歯を失った場所にダミーの歯を入れるための連結型の被せ物。両隣の歯を橋(ブリッジ)の橋脚のように支えとして使います。



★メリット

- ・ガッチリ固定されるので、違和感が少ない。
- ・噛む力が落ちない。
- ・自然な見た目に回復する。

★デメリット

- ・歯を削る必要がある。
- ・支える歯の負担が大きくなるので傷んでしまうことがある。
- ・連結型なので汚れがたまりやすい。

2. 部分入れ歯

人工歯に床という歯ぐきの土手に乗っかる部分をつけ、残っている歯に部品を引っかけて固定する。



★メリット

- ・歯をあまり削らなくて済む。
- ・比較的費用や時間がかからない。
- ・取り外し式なのでお手入れがラク。

★デメリット

- ・噛む力が弱くなる。
- ・クラスプをかける歯など、固定源になる歯に負担がかかる。
- ・治療後に調整が必要。

3. インプラント

失った歯の根のかわりに、チタン製のネジ状の部品(インプラント体)をあごの骨の中に埋め込み、その上に人工歯を被せる。



★メリット

- ・周りの健康な歯を削る必要がない。
- ・周りの歯に負担がかからない。
- ・噛む力が落ちない。
- ・違和感がほとんどない。

★デメリット

- ・手術が必要。
- ・治療期間が長く、治療費が高価。
- ・歯科医院での定期的なメンテナンスが必須。

歯科治療の最終目標は、よりよい状態が安定して長く続いて、患者さんの健康と笑顔に寄与すること。将来に向けて納得できる治療を選択していただくために、治療内容について患者さんご自身に知っていただくことは重要なことです。治療内容についてのご相談はいつでも受け付けております！